

平成27年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【東北農政局長賞】

～一危機感を原動力に一 やる気・元気・活気のむらづくり～

受賞団体：芦ノ原地域おこし推進協議会（福島県下郷町）

◆むらづくりの背景・経緯

芦ノ原地域では、平成20年の国道289号の開通により地域内の国道118号を往来する車の激減と世帯数の減少により活気が失われ、「このままでは集落がなくなる」との危機感が強まった。このため、平成22年に「村づくり検討委員会」を設置し、集落の代表者が集まり地域の抱える課題やその解決策について話し合いが行われた。その後、「下郷町芦ノ原地域おこし計画策定委員会」に改称し、話し合いの中で三つの柱からなる「芦ノ原地域おこし計画」を策定した。計画の円滑な実行のため平成23年6月に同じメンバーで「芦ノ原地域おこし推進協議会」（以下「協議会」という。）を設立し、むらづくりに向けた具体的な活動を展開している。

◆むらづくりの内容

○農業生産面

平成24年4月に芦ノ原直売所「はいとー」をオープンさせ、毎週土・日、祝日に地域内で採れた新鮮な農産物を販売している。直売所では、農作物やその調理についての知識が豊富な女性や高齢者が積極的に店頭に出て、買い物客との交流を行っており、自分で生産した農産物を販売し収入を得ることで、農業生産への意欲が高まっている。

また、耕作放棄地対策として県立会津大学短期大学部の協力を得て、都市住民に農業体験を提供する棚田オーナー制度を開始し、都市住民との交流も行っている。棚田オーナーには、3年連続で参加するオーナーもあり、その活動は徐々に定着している。



棚田オーナーの皆さんと

○生活・環境整備面

地域には、数多くの神社仏閣が存在しているが、整備が行き届かず、住民も長年訪れていない状況にあった。協議会では、後世に村の歴史やいわれを伝えるため、神社に続く道や歴史的景観を持つ箇所を整備し、大小18基の説明板を設置した。

また、地域で問題となっている鳥獣被害について、平成25年度から草刈りを中心とした緩衝帯の整備を実施してきた。年間1haずつ行われている緩衝帯の整備は、農作物の被害防止だけではなく、集落内を見通す景観形成の役目も担っている。



神社へ続く道の整備